日本科学哲学会第 50 回年次大会

倫理的な発達における「手本」の位置づけについて

立花幸司(Koji Tachibana)
熊本大学／オックスフォード大学

リンダ・ザグゼブスキは近著（2017）において、倫理規則でもなければ人の性格特性でもなく、むしろ人そのものを焦点とした倫理理論を提唱している。彼女は、自身の理論がパトナムやクリプキが提唱した直接指示の理論にそのアイデアの源泉があるとした上で、倫理理論である以上、実際の倫理教育を支える理論として実効的であろうとしたものであると繰り返し主張している。

そうした志向をもつ彼女の「手本」理論によれば、人が倫理的に発達するのは、倫理的な手本となる人を真似ることによってである。倫理的な手本とは、人々が称賛する（admire）人のことであり、誰が称賛に値する（admirable）人であるのかは、その人の性格特性に訴えずとも直接同定できる。典型的には、聖人、英雄、天才、賢人が手本として挙げられるが、ただし天才については、称賛に値するものの（その定義からして）真似できない人のことであるので、倫理的な手本からは除外されることになる。ここに、彼女の手本理論における「称賛に値すること」と「真似ることを通じた倫理的発達」の間の関係をみてとることができる。そして、この手本理論の実効性は、この理論が心理学や神経科学などの知見と整合することを論じることによって唱えられる。

そこでこの発表では、彼女自身が重視する実効性という観点から、彼女の手本理論を検討する。具体的には、「称賛に値すること」と「真似ることを通じた倫理的発達」の間の関係に焦点を当て、一方で、彼女自身が挙げている神経科学の分野の研究を、他方で彼女が挙げていない宇宙医学分野の研究（Tachibana et al. 2017）を、それぞれ参照しながら、倫理的な発達における手本の位置づけについて検討を行う。

参照文献

Tachibana, K., S. Tachibana, N. Inoue. 2017. From outer space to Earth: The social significance of isolated and confined environment research in human space exploration. *Acta Astronautica*, 140: 273–283.

Zagzebski, L. 2017. *Exemplarist Moral Theory*. Oxford University Press.